

幼童教育と童謡 (1)

葛原 幽

童謡は、面白くさへあれば、幼児教育界に大切な役目を果たす。その役目の半面に、幼童をスポイルすることが有つてはならない。

世に所謂「童謡」の中には少しの不注意から、さうした不安の伴つてゐるものがある。本號以下ペンを新にして、それを省みる。

童謡と外國語

1

我が國の日常生活に於ては、幼児の世界に於ても、外國語が多くなり、「ピアノ」や、「リボン」や、「ナイフ」や、「ボール」は、よびかして、「ポケット」が「ポッケット」になり、「ボウト」が「ボート」になり、「ハンカチーフ」が「ハンケチ」になるのを困ります。

その上、アクセントの事も、大に問題になりますので、多年、幼児の童謡唱歌に苦心してゐます私共して、出来るだけ、苦もなく、正しい發音ミ、アクセントによる外國語を、さういれたくて、『幼年の科學』第十一號に於て、試みたものがあります。勿論、それが「幼児の科學」である事は忘れませんでした。前掲の「みんなみんなぼ」も同じく、動物ですから其の習性をも、これによつて、幼児に傳へようといふ事は忘れませんでした。

ウッドベカー

一、森の木山の木

木の洞うらぶら

洞うらの中に、巢をくつて

木を喰ふ蟲は ゐないかき

木つゝき ベク ベク

ウッドベカー

一、ベクベク ベベベク

ベベベク

大きな嘴 木をつゝき

ゐないか ゐるか 音で知る

木つゝき ベクベク

ウッドベカー

むかし、中學で習つた英語は、「小さい」は「リットル」であり、「より善い」さへ、「ベッター」を聞いて、そして、此の「木つゝき」は、「ウッドベッカー」でありました。それを、この童謡では正したくて、「ベッカー」を長びかしては、何うしても、おのづからなるリズムが破れてしまふ様に、つかひました。ベカーは、本来、二音節の英語ですけれど、日

本音にする時、「ウッド」を合せて五音に聞えるやうに、

木つゝき ベクく

ウッドベカー

こ、はめたのです。併し、この時、「ウッド」だけで、三音節によまれ、又曲つけられさうで、困つてゐます。「ウッド」が一音節であることは、英語を學ぶ初歩の時、大に疑はれました。「デスク」が一音節であることが、日本語になる時、三音節になるのと同じく――。

こまれ、この時、少くとも、

木つゝき ベクベク

のつゝきとしては、

ウッドベッカー

こは、何うしても、讀まれぬ筈ですから。

その上、「啄木鳥」の習性の大事なことは、山や、森の中で、木の洞に巣くふ蟲の居るか居ないかを、長い嘴で、木を叩いて知るさいふこき、それも、十分に、いつた積です。

唯、第二節の

ベクベク ベベベク

ベベベベ

は、如何にも苦しみました、木をつゝく音が、日本語では、コツゝになりさうな事で、洞の木を叩く音は、コツゝよりも、ベクゝの方が、如何にも、適確である點を探りました。そして、幸にして、その擬聲は、犬の、「バウウ」が「ワンワン」にも響く事以上に全然、日本の言葉にも有るベクベクなのですから、又、同じ第二節で

ゐるか ゐないか 音で知る。

このみでは、「何が居るか居ないか」なのかと、問はれさうですが、第一節の續きですから、「木を喰ふ蟲」であることは、明瞭なものにして、いさゝかの不手際を、おゆるし下さい。今一つの不安は、*iii* の「ア」ですが、これは、日本文字では、かけないので、困り入つてゐます。せめて、「ウツドベカ」かこも考へ直してゐます。

2

一體、この音節の事は、言語學上、發音上、外國語を日

本語化する點から、論すべき方面の多い問題ですが、前出の、

ポケット が 日本語であり

バケツ も 日本語であり

ワイシャツ が 日本語であるのこ

同じく、これらを、本来の英語として取扱はうとしなければ、よいのです。殊に、日本の假名で書き表はせない音の多い外來語ですから、

バキッ

バケッ

ホワイト シャート

こも書けない次第です。彼の、氷滑にしましても、「スケ

テング」でなく、少くとも、東京中央放送局の略號が

ゼー、オー、エー、ケー、

でなくて

ゼイ、オウ、エイ、ケイ

であるのと同じく、氷滑りは

スケイテング

です。しかも、これが、六音節でなくて、二音節である事は、日本人の耳にまつては、不思議です。否、不思議ではない、疑問です。少くも、何んなに正しく發表されたにしても、日本人の耳に、これが、二音節のものとは聞えません。デスクが三音節に聞えると同じく。そこで、曾つて、此の「ステイテング」の唱歌を作る時、實は、まつ、その輕快なる爽快味を、曲で作つて、それに、歌を嘗つたのですが、豫め、作曲者ニ協議しまして、二音節で、その當て嵌る一小節を工夫して貰つておきました。しかも、そのアクセントが、尻下りになる様に。(これは、幼児向でなく、小學校の四年程度のもので、『大正少年唱歌』第八集に收めておきました。)

これを、若し、日本人の耳に響き聞える様に、六音節にして、曲もつけ、歌はせておきますと、その幼児が成長後、外國語を覚え、發音する時に、ずる分、困るであらうと案じます。

これと同じ理由によりまして、

ピアノ

の童謠を作つた二十年昔、これは、「大正幼年唱歌」第一集に收めました。が、アクセントを全然、本來の英語のアクセントに合せる様にしました。(これも、曲が先に出来て、後から、それに歌をはめたのです)。しかも、此の「ピアノ」の語ほぎ、多く、幼稚園でも、小學校でも、誤まり發音されてゐるものはないほぎ、それほぎ多く、日本人の生活に、また、日常の言葉に出て來る樂器であります。即ち、

ピアノ

まいはれます。これは、

アジア洲 が アジャ洲

シベリア が シベリヤ

イタリヤ が イタリヤ

オーストリア が オーストリア

なごと同じく、「ア」が、「ヤ」に訛つてゐるのですが、それよりも問題にしたいのは「ピアノ」のアクセントのここです。「ア」にアクセントがある事に、多くは、「ピ」にアクセントをおいて、發音されてゐます。日本語とすれば、何でも宜いでせうが、英語の積で、「ピ」に、アクセントをおい

て發音されてゐては、困ります。「ワイシャツ」や、「バケツ」の如く、全然、本來の英語の發音から脱化してしまつてゐるのなら、問題は輕くてすみませんが、「ピ」にアクセントのある「ピアノ」や「ピヤノ」は本來の英語に、稍々似てゐるだけ困ります。

かうした外來語は、幼児期から、正しく發音する様に誘導しないミ、小學校や、殊に、中等學校へ進んでから、訂正するのに、非常に、本人も苦心しますから、イの一番に、初めて習ひ覺える時、正確に、發音されなくては困ります。

眞に幼児を愛するものは、なまじつかの知識で、英語の唱歌なご教へない方が、無難です。

時々、クリスマスの夕なごで、舌の廻りかねる幼児の、英語の讚美歌をきいて、嬉しくもあり、案じもします。若し、それで、正しい發音の外人教師の指導なら宜いとして、時に、専門學校や、中には、中等程度の學生生徒が、日曜學校の先生であるのがある様です。(勿論、その學力程度が、その人の外語の發音の正否の尺度ではありませんが：)

この事は、教會關係でなく、氣の利いた幼稚園の先生の
中にも、警戒を願ひたい點です。

一體、私共は、母國語を尊重する一面、正しい外國語を、正しく、日本語にしても採用するだけの雅量を持つてゐた
のです。デパートメントを「百貨店」は、よく譯して
ありますが、ピアノを、洋琴、オルガンを風琴、ゼワイオ
リンを提琴と譯した先人に、その苦心には敬意を表しても、
邦語譯の必要を求めないのみならず、やゝ、出來過ぎなさ
へ感ずる次第です。アパートメントはアパートメントで宜
しいではありませんか。

3

兵隊さんが 進む

の中の「兵隊さん」を

～イ タ イ サ ン

ミ六音節に讀み、六音節に歌ふのは非にして、

～イ タ イ サ ン

ミ三音節に讀み、三音節に歌ふのが正しいといふ作曲者で
あり獨唱家である友人に共鳴してゐます。

東京

も、「トウキヨウ」に五音節に聞えやすいのですが、

實は、

トウキヨウ

であるべきだといひ

本郷住民

東京築港

關東平原

なごは、すべて、四音節であるべきです。それが、從來は、

ホシゴウジユウミン

トウキヨウチッコウ

クワントウヘイゲン

の類に讀まれてをりました。

此の類の發音を、合理的に取扱ふ様に、私共作歌者も、

また、作曲者も心し、殊に、幼児に、童謡や、唱歌を教へ

らるゝ幼稚園や小學校の低學年の先生方は、唯、音樂上の曲節を教へるのが、主としての仕事であるにしても、實

は、幼児の一生を支配する言語の第一歩を、正しく踏み出させる役目を背負つてゐるのだまの自覺の下に、教材としての童謡唱歌の、選擇に際しては勿論、その教授に際しては、細心の御注意を祈る次第です。

先般も、文部省主催の英語教授の研究會に於て、福島中學の二年生と四年生との實地授業がありました、大に考へさせられましたのは、その地方的の訛言としての、ズー辯が、英語に於ては、殆んど聞えなくて、のち、同じ生徒の日本語には明瞭に、ズー辯が聞えた事です。これは、口や舌の形や位置に注意して、初歩から發音を正確に導かれた英語では、東北地方の少年も、正しく、「イ」に「エ」また「シ」に「ズ」の區別をし得るのです。

この一事は幼児を教へ導くものも、まづ、自ら、大に學んでおかなくてはならぬ事、大に省みさせられるではありませんか。

4

夜明けの波止場

白い塔が出來た

メリケン袋の

高い塔が出来た

この「メリケン」の如きは、勿論、「アメリカン」の訛ですが、すつかり、日本語になつてしまつてゐるのですから、いゝもしても、

朝日がさして きいらきら

五色の絲の ハンモック

眠つてゐるのか

王子様

八つ脚ひろげた

王子様

の中の「ハンモック」の如きは、全然日本語にもなつてゐますけれども、また、元來の英語でもありませんから、考へなくてはなりませんでした。これは、本來の英語なら殆んど「ハモック」でせうけれど――

繩の電車

地面に するく、白曇で

かいた二本の電車道

うね うね まがつた

レール道

廣い狭いの線路でも

繩の電車に のりこんで

みんなで、走れば 面白い。

前で 運轉手 ハンドル廻し

後で 車掌が チンくくく

お客が みんなで ゴーくくく

右は、小松耕輔氏の作曲ですが、「レール」が、二音節に扱はれてゐます。しかし、これも明かに、三音節の日本語になつてゐるのですが、これを、原音に近く、せめて二音節にした苦心、殊に

ハンドル

を、四音節にしないで、

二音節

の原音そのまゝに扱つてある用意を悦びます。

「休のベル」こいふ童謡の中の、「ベル」も元來は一音節で

あるべきに、二音節に扱つてあるのがあります。

『玩具のマーチ』の中の「マーチ」、

『銀坊主』や、『チヨコレイト』の中の、チヨコレイト、

みな、警戒を要します。

5

これミ、稍ミ、似た邦語の中で、「雁々わたれ」を、

ガン ガン ワタレ

ミよみ歌ふべきか、

ガン、ガン、ワ、タ、レ、

ミすべきか。「ケンく子雉」を、

ケ、ン、ケ、ン、コキジ

ミよみ歌ふべきか、

ケン、ケン、コ、キ、ジ、

ミすべきか。を考へてみなくてはなりません。

これに似たものに、擬聲や、擬態の發音があります。

鳥は かア かア ないてるる

雀は ちゆん ちゆん ないてるる

にしましても、これを

鳥は かア かア ……………

雀は ちゆん ちゆん ……………

ミ歌つたのでは少しも、鳥や雀の聲には聞えないのです。

すずめ 小松耕輔氏曲

一、あちらの屋根で

チユン チユン チユン チユン

なくよ

口をば あけて 元氣よく

チユン チユン

チユ~~~~~チユン

さへづるよ

二、こちらの屋根で

チユン チユン チユン チユン

なくよ

まげずに なくよ 元氣よく

チユン チユン

チユ~~~~~チユン

さへづるよ

この擬聲の何の一つでもが、みなよ、一音譜にしてあるのです。殊に、各節の終りに近い

チユン チユン

は、他のが、みな 八分一音に扱つてあるのに、これは、長く、四分一音にしております。うっかりするに

チユ、ン、チユ、ン、

の四音節にさへなされさうなところです。

さんび

梁田貞氏曲

一、さへ さへ さんび 空高く

なけ なけ さんび 青空に

ピンヨロー ピンヨロー

ピンヨロー ピンヨロー

楽しげに、輪をかいて

二、さへ さへ さんび 空高く

なく なく さんび 青空に

ピンヨロー ピンヨロー

ピンヨロー ピンヨロー

楽しげに 輪をかいて

(大正少年唱歌第一集)

この「ピンヨロー」も、決して、「ピ、ン、ヨ、ロ、オ」は曲つけられてゐないのです。明かに、

ピン、ヨ、ロー

の三音に扱はれてゐます。それと同じ、「さんび」にしまし
て

ト、ン、ビ

ではなくて、明かに

ト、ン、ビ

なのですから、二音に扱つてあります。梁田氏の名曲たる
所以です。

「慾ばり犬」(梁田氏曲)は、イソップのあの犬のこゝです
が、この歌詞の第二節が

あれも ぬすんだ肉だらう

うばひ取らうと 大ごゑで

一こゑ ワン ミ吠えてみた

こいふのがありますが、その「ワン」も決して、

ワ、ン、

ではなくて、唯、一音「ワン」なのです。

要するに、擬聲の中には、唱歌上、外國語と同じく、取
扱はれなくてはならないのに、唯、曲に左右されたり、半
可通の修辭のために、不自然に取扱はれたりしてゐるもの
が少なくありません。そんな取扱方をされてゐる擬聲の效
果は、全然、ゼロですから、外國語に注意するのと同じ注意
を、此の方面へも、向けたいご存じます。

(二六八頁より)

考慮を要する最も至難なる最も大切な事ご思ひます。

私共今日斯うすれば良いご確心を以て精一杯やりました
事も明日ごもなれば早や失敗を感じる事さへあります、こ
のやうな凡人がこの大きな仕事を易々ご判る筈も無いごも
思ひますが然しそう一考の元に片づけるわけにも参りませ
ん。

明治の教育が昭和の今日表はれる如く、幾十年の後に始
めて表はれ判るものか、それも分らないものでありませう。

現實の自己の無能無力を感じ、人格の向上を希ふ我々は
その日その日を先づ信ずる方向に力一杯働き一步一步進ん
で行く處に私共の生活の眞の意義があるのではなからうか
ご考へます。